

三位一体の主日

2014.6.15

ヨハネ 3・16-18

「主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがた一同とともにあるように」。今日の第二朗読で聴いた、コリントの教会への第二の手紙の結びのことばです。最初の教会の時代から受け継がれてきたこの同じ挨拶を交わしあうことによって、私たちは今日もこのミサに招き入れられました。

私たちが捧げるすべてのミサは、主イエス・キリストの十字架の死と復活を通して私たちに示された神の愛を信じる私たちを、神の愛そのものである聖霊の交わりの中に招き入れ、私たちが神の愛のうちに一つに結ぶ、目に見える信仰の神秘です。このミサにおいて、ここに集っている私たちの中に主イエス・キリストによってもたらされた恵みとしての神の愛と、その結果としての聖霊の交わりが実現しているのです。ミサはそのようなイエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりを信じる信仰によって結ばれた私たちの神への感謝の祭儀です。

ミサは感謝の祭儀とも言われますが、ミサが感謝の祭儀であるのは、ミサに集う私たちが互いにこのような挨拶を交し合う者たちとされたことへの感謝の祭儀であるからです。ミサにおいて私たちは、私たちの主イエス・キリストが私たちに与えてくださった神からの恵みに感謝をささげるのです。主イエス・キリストを通して示された神からの恵みとは、私たちと同じ一人の人間となって、私たちの中に来てくださった神であるお方が、この世に生きる私たちの全ての重荷とその重荷の下にある私たちの苦しみの全てを、自らの肉のからだをもって知ってくださり、ともに担ってくださったことによって示された神の愛の恵みです。神であるお方が、この世を支配する権力の残忍な横暴さの犠牲となって十字架に架けられることによって、神はどのような人々の中に、どのような人々ともにいて下さるかを示された神の愛の恵みです。そのことによって示された、支配する者たちとその支配の下に苦しむ人々との理不尽な人間社会のありようが、神の御眼にどのように映っているかを示す、神の裁きとしての愛の恵みです。一人の人として十字架の上に死なれた神であるお方の復活は、この世の支配の下に苦しむ人々への神の愛は、この世の如何なる残忍な支配にも打ち勝つ全能の力を秘めていることを示めす、希望をもたらす神の愛の恵みです。

イエス・キリストの十字架において示された神の無限の愛の深みを悟るためには、私たちもその中に巻き込まれている、この世の権力の無責任さと横暴によって苦しみの底に突き落とされている無数の、同時代を生きる人々の苦しみを知らなければなりません。その苦しみにしっかりと目を据えなければなりません。何時の時代も変わることのない人々の苦しみの只中で、人となられた神の子イエス・キリストは十字架に架けられたのです。その神の子イエス・キリストの十字架の死と復活によって、この私たちの現実に対する神の裁きと、神の愛は示されたのです。イエスの十字架によって、自分たちがイエスに対して抱いていた神の国への期待がもろくも崩れ去り、言いようもない挫折の中に取り残された弟子たちのもとに復活されたイエスは来てくださり、「あなたがたに平和」と言って、復活のいのちの息吹である聖霊を吹き入れてくださったのです。十字架の死に打ち勝ったイエスの復活のいのちの息吹である聖霊に満たされることによって、弟子たちは何事も信じがたいこの世の挫折の経験の中で、真に信じるものを自分たちの中に見出すことができたのです。イエスを死者の中から復活させた神の愛こそ、この世に生きる者たちの我が物顔の頑迷さが生み出すあらゆる混迷の闇を打ち破るいのちの光であることを悟ることができたのです。そのいのちの光の中で、弟子たちは互いの違いを越えて、自分たちが神の子らとして一つに結ばれていることを経験することができたのです。

「主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが皆さんとともに」「また司祭とともに」という挨拶のことばをもって招き入れられた今日のミサにおいて、私たちはイエス・キリストの十字架において示された神の愛に包まれます。その愛のいのちそのものであるキリストの聖体をこの身にいただきます。私たちがその愛に包まれ、その愛のいのちをこの身にいただく神の愛は、イエス・キリストの十字架において示された神の愛です。この私たちの現実の社会のありようを糾弾し、その社会の現実によって苦しみの底に追いやられた人々の苦しみに寄り添い、その苦しみからの解放をもたらそうとされる神の愛です。その神の愛に包まれ、その神の愛のいのちをこの身にいただくために、私たちはこのミサの集いに招かれているのです。ここに十字架の死を越えて復活され、父なる神の右の座についておられる神の子イエス・キリストによってもたらされた、この世を越えた神の国が広がっているのです。

私たちがこのミサにおいて、今ここに働く聖霊によって心を開かれ、このミサにおいてささげられる神の子イエス・キリストの十字架の犠牲によってもたらされている恵みに気づき、そこに示されているこの世を生きる私たちに上に

注がれている神の愛を受け入れることが出来るとき、私たちはこの世のありようを越えて広がる真の交わりの世界に招き入れられるのです。

このような時代に直面している私たちが、今そこから立ち上がって行くために必要としているのは、苦しみの中にある者たちの、苦しみを通しての、それに打ち負かされない交わりであり支え合いです。私たちが今日ささげるこのミサが、そのようなところから出発し、そのことを祈り求める、私たちに示されている、主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりのミサとなることを願って祈りたいと思います。

カトリック高円寺教会
主任司祭 吉池好高